

# 各紙が報ずる 助け合いの絆

7月12日付岩手日報

## 豪雪時の支援に恩返し

西和賀の 陸前高田で炊き出し  
NPO法人



イワナを焼き、千田和可さん(右)に振る舞うNPO法人の関係者

西和賀町のNPO法人 深澤晟雄の会(太田祖電理事長)は10日、陸前高田市の横田中の仮設住宅で炊き出しを行い、郷土芸能を披露した。

今回の支援は1996年に豪雪に見舞われた旧沢内村の農家が、陸前高田市から稲の支援を受けた恩返しの意味が込められている。

会員ら33人が訪れ、イワナ焼きや特産品「西わらび」の料理を振る舞った。さわうち太鼓百年座の演奏や沢内甚句も披露され、地元住民は楽しいひとときを過ごした。

同仮設住宅に住み、以前旧沢内村の保健師を務めた千田和可さん(69)は「陸前高田の支援を忘れないでいてくれたことがうれしい」と感謝。同NPO法人の米沢一男さん(68)は復興に向け「生きる力と命を守ることを大切にしてほしい」と願った。

NPO法人 深澤晟雄の会が陸前高田市に西和賀町民の思いを届けた支援活動を、朝日新聞、岩手日報、沿岸南部をエリアとする東海新報の各紙が取り上げました。

その紙面からは、半世紀前からの「助け合いの絆」と「生きる希望を繋ぐ」人間愛の深い縁が伝わってきます。

## 「46年前のお礼に」

### 西和賀から炊き出し

陸前高田

西和賀町のNPO法人・深澤晟雄の会(太田祖電理事長)が10日、陸前高田市立横田中学校の仮設住宅で炊き出しなどの支援活動を行った。同会は「46年前に高田から『愛の救援苗』を届けてもらったお返しに」と話し、双方の間に感謝の思いが行き交った。

湯田町と合併し西和賀町となる前の旧沢内村では、昭和35年のチリ地震津波の際、陸前高田市を支援。同40

年、豪雪と低温で苗が育たず田植えができなかった同村へ、同市から「お礼」として4000束の苗が贈られたという。

今回の支援は「あのとき村民に生きる希望と勇気を与えてもらった恩返し」と、同会を中心に、沢内民謡保存会と「さわうち太鼓・



7月12日付東海新報

西和賀町からの支援者たちと、陸前高田の千田和可さん(前列中央) 横田中

「百年座」「夢追い人かじか組合」が協力。イワナの塩焼きや炊き込みご飯、西わらびの汁物など約100食を振る舞い、民謡や太鼓披露で避難住民を励ました。

橋渡し役となったのは、同40、44年に旧沢内村で保健師をしていたという高田町出身の千田和可さん(69)。現在は横田中の仮設住宅に入居している千田さんは、「互いに助け合おうという気持ちは何十年と行き来しているのは素晴らしいこと。大切に受け継いでいきたい」と感激していた。